

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300220
法人名	有限会社ケアサービスちゅうりっぷ
事業所名	グループホーム 咲いた
所在地 (電話番号)	福岡県鞍手郡小竹町大字御徳権現堂115-3 (電話) 09496-6-4188

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	9月26日

【情報提供票より】(平成19年8月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 3.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(8月16日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	59歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中野病院 / ももち浜クリニックツインズももち在宅診療所 / ほわいと歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々に囲まれた自然の中にあるグループホーム咲いたは、「心にやさしいサービスの提供」・「臨機応変に対するサービスの提供」・「地域に貢献できるサービスの提供」という理念のもと、入居者の意思を尊重した質の高いケアをめざしている。四季折々の山野草と家庭菜園に囲まれた暮らしの中で、地域との関わりを大切にしながら、職員は入居者と共に愉快地楽しく暮らす家族としての役割を果たしている。また、「人生の最終章の思い出を、このホームで彩り豊かに咲かせてほしい。」というホームの名前の由来には、運営者の想いが深く込められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価が初回のため該当なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で見直し、研修の場として日々のケアを振り返る機会として位置づけている。また評価によって見いだされた課題を改善課題として取り組む方向にある。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそえぞれを活かした取り組み(関連項目:4.5.6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に行われているが、参加者が少ない。これからの内容の充実に向けて検討中である。ホーム便りなどを作成し、家族や地域との付き合いを深めていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が訪問した際には、必ず健康状態や金銭管理簿を見てもらい、サインを頂いている。家族の意見や苦情は、個別相談や電話で随時対応し、家族の意向を運営に反映させるために管理者・職員で話し合い、解決するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	一般住宅から、少し離れたところに立地しているため、地域との関わりが限られている。しかし、町内会に加入しているため、回覧版のやり取りを行ったり、町内会の行事に積極的に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心にやさしいサービスの提供」「臨機応変に対するサービスの提供」「地域に貢献できるサービスの提供」という理念に基づいて、地域との関わりを大切にしながら、職員は入居者と共に愉快地楽しく暮らす家族としての役割を果たしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がスタッフルームと事務所に掲示され、朝礼時には、みんなで唱和され、周知徹底されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているので、回覧板などのやり取りを行ったり、町内会の廃品回収(月1回)、夏祭り(年1回)など活動や行事に積極的に参加している。また、隣近所の方には、ホームで畑・花植えなどを行っているので、収穫物を配布したり、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価である。自己評価および外部評価をホームの質の向上に繋げる様にしたいと思い、管理者・職員全員で取り組み、評価結果後の課題は改善していく方針である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しているが、参加者は少ない状況がある。参加者の日程調整を充分に行い、できるだけ多くの人に参加できるようにしたいと考えている。		ホーム側だけの一方行的な報告に終わるのではなく、地域や行政からの質問や意見・要望を受け、双方向の会議となるよう、できるだけ、多くの参加者が参加できるように日程などの調整が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、連携が取れていない。		市町村の担当窓口に対して、ホームの実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝える機会を設けることが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者の中の一人が成年後見制度を利用され、必要な方には、日本弁護士連合会に相談している。権利擁護に関しては、対応が必要と思われる入居者がいる場合には、随時、職員に説明・アドバイスを行いながら、入居者の支援に結びつけていくことが求められ、勉強会などを開き、職員の理解を深めることが求められる。		権利擁護は、管理者及び職員が、必要な時に支援できる体制が求められ、高齢者や認知症の方々の尊厳・人としての権利(人権問題)として研修を実施したり、外部研修に参加するなど、理解を高めることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行を計画している。また家族の訪問の際、必ず入居者の健康状態や金銭管理簿等を見せ、サインを貰うようにしている。急変時は、電話にて連絡をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や施設の行事等で常に問いかけたり、何でも発言できるような雰囲気を大切にしている。また、問題が発生した場合は、ミーティングを実施し、サービスの質の向上に繋げている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近離職者があまりいないが、入居者より離職者について質問があった場合は、その都度対応しながら、不安・不穏を最小限にとどめている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別・年齢を基準にしてはしない。高齢者が好きな方で、職員として必要な資格を有していれば採用対象としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者も職員も対等であるという考え方をベースにしている。また、月に2～3回のミーティングを開催するなど、積極的に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員が働きながら、技術や知識を身につけていくための研修の参加・実施が少ない。今後、社協の研修に参加したいと考えている。		今後は、社会福祉協議会などの研修の情報収集を行い、研修への参加の機会を作る方向にある。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	バーベキューや餅つきなどで、同業者との交流を図っている。今後は、サービスや職員の質の向上を目的とした交流を図りたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学や体験入所により、グループホームになじんでいたように支援している。また、入居に当たっては、本人が納得できるまで話し合いを行うようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	「臨機応変に対するサービスの提供」いう理念に基づいている。アセスメントにより、入居者一人ひとりの想いを大切に、職員が入居者より、これまでの経験から学んだり、共に支え合いながら暮らしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。また、3ヶ月おきに、ケアプランを作成・変更しており、変更後には、本人・家族と相談している。		職員全員が、暮らしを支えるためのアセスメントの中で、一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握しようと努めることが大切である。入居者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握し、ケアに活かすことが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	ケアカンファレンスで意見を聞きながら、入居者一人ひとりの意向にそった個別の介護計画を立て、サービスの提供を行っている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	ホームの理念の一つでもある臨機応変な対応を実践することで、期間にとらわれない、本人の変化に応じた、細かいケアが実施されている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	隣接したデイサービスなどとの連携を活かした支援ができています。また、家族が対応できない場合は、通院など必要な支援は、柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者のかかりつけ医の希望を尊重し受診を支援している。また、服薬管理を含めた医療連携も取れている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化へ向けて、終末期の方針を決定する話し合いを行っている。以前、亡くなった方の葬儀を行うなど、終末期に関する理解は、徐々にできている。		介護し続けるという視点で、本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、最大の支援方法を話し合うようにし、人生の最終章を自分らしく過ごせるような支援が望まれる。今後は、終末に対する対応指針を定め、家族・医師・看護師を交えて関係者全体の方針を図っていくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個浴が徹底されている。個人ファイルや記録なども個人名が見えないような配慮がなされている。入居者との言葉遣いも、現場で適宜指導がなされている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	本人のペース・意思を尊重し希望にそった支援を行っている。週1回の外出支援や買い物など必要に応じて、職員と一緒に外出するようにしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	女性・男性問わず入居者と一緒に食事の準備をしたり、入居者全員で食事ができるように努めている。また、庭には、入居者と一緒に育てた野菜があり、食卓に彩りを添えている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は、特に入居者の習慣や希望が多様なため、一人ひとりの希望を尊重し、入浴の曜日・時間帯は特に決められていない。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の生活の中で、生活暦・残存能力を活かした役割(菜園のお世話・食事の準備・洗濯物たたみ)を、楽しみとして行い、支援できている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天気や入居者の健康状態・希望に応じている。できるだけ心身の活性につながるように、日常的な散歩・買い物・ドライブ等に出かけるようにしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は、全く鍵を掛けないようにしている。入居者の状態が安定しているためか、一人で外出されることはない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防訓練計画は作成されているが、訓練の実施までには至っていない。		今後、消防署の協力や地域住民の協力を得ながら年2回の消防訓練を計画している。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量は管理されている。栄養のバランスに関しては、調理本などを活用し、スタッフと共に、入居者の好み・習慣に配慮しながら支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	グループホームの玄関スペースには、裏山で採れた山百合が活けられ、訪問者の心を和ませてくれる。また、換気を良くするために網戸を利用したり、日差しを和らげるように、カーテンなどの配慮がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居時の話し合いの中で、使い慣れた物や好みの物を持参してもらおうようにしている。また、リビングの居心地が良いためか、昼間居室に閉じこもる方はなく、談話を楽しまれたり、テレビを見たりとゆったりと過ごされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			